

2019年11月実績概要（メモ）

（2019.12.19）

エチレン生産をはじめ各誘導品の生産においても前年を割り込む品目が多数にのぼる。

1. 生産動向

イ) エチレン 552,000トン

前月比 ▲1.1% (▲6,300トン)

前年同月比 ▲1.3% (▲7,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	—
定修要因等	—	—
能力増減	—	+0.1%
稼働率変動	+2.1%	▲1.4%
生産増減率	▲1.1%	▲1.3%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94.4% → 当月96.5% ← 前年同月97.8%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

本年1～11月の累計生産量 5,852.9千トン、前年同期比+4.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少に対して定修規模差の縮小等もあり、PP、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの9品目がプラス。PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、ANなどの8品目は日数減や定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、SM、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの12品目でマイナス。塩ビモノマー、MMAモノマー、BRなどの5品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、HD、PPは日数減があるものの主に稼働率要因からプラス。LDは日数減と定修規模の縮小がほぼ相殺し微減、PSは定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、LD、HDは主に定修規模の差からマイナス、PPは主に稼働率要因等から微減となった。PSは定修規模差から若干のプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、ユーザー側の稼働日数の減少に伴いLD、PSではほとんどの分野で出荷が減少することとなった。また、PPは射出成形分野を中心とした出荷減少からマイナスとなった。HDはパイプ分野等で僅かながらの増加がありプラスとなった。

前年比は、LD、HD、PP、PSともにマイナス。LD、HDでは依然としてフィルム分野の出荷が前年を下回る状況にある中、フィルム以外の分野でも増加が見られておらず、前年割れとなった。PPはフィルム分野等の増加があったが、出荷数量の多い射出成形分野の出荷減少が響きマイナスとなった。また、PSは包装用、雑貨産業野の減少幅が大きくマイナスとなった。

ハ) 輸出

LD、HD、PPともに前月と同様に1万トン前後の輸出量となった。前月比でLDはプラス、HD、PP、PSはマイナスとなった。

前年比は、前年の輸出量が低調あったこともありLD、HD、PP、PSともにプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPで増加、HD、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは低下、PSは前月並み、PPは上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PPともに高め、PSはほぼ適正レベルとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LD	+4,600	3.7	3.6
HD	▲3,600	3.7	3.4
PP	+9,900	2.8	3.0
PS	▲6,700	1.6	1.6